

第1回 学校運営協議会



令和8年6月4日（木）

豊橋市立幸小学校

令和8年度 第1回幸小学校学校運営協議会

令和8年6月4日(木) 10:00～

幸小学校 校長室

進行：教頭

1 地域教育推進室 佐藤指導主事より

2 校長あいさつ

3 議題

- ・本年度の学校経営方針について(校長)
- ・重点努力目標達成に向けた具体的な取り組みについて(教務・校務)
- ・学校予算について(主査)
- ・本年度の年間計画, 学校評価について(教頭)

4 質疑応答

5 連絡

今後の学校運営協議会の活動について(教頭)

- ・第2回学校サポート委員会は令和8年10月22日(木)の予定です。別紙の依頼文書をご確認ください。
- ・第3回学校サポート委員会は令和9年1月28日(木)の予定です。

6 授業参観・施設見学(10:40～)

【令和8年度 学校運営協議会委員】 順不同

○校区自治会長 伊藤 研 様

【学校運営協議会会長】

○校区副自治会長 山田 静雄 様

○校区副自治会長 鈴木 康夫 様

○校区教職経験者 藤井 直哉 様

【ボランティアコーディネーター】

○主任児童委員 土屋 基恵 様

○交通指導員 東出 純子 様

○PTA会長 鈴木 貴久 様

○学校応援ボランティア代表 三矢 雅子 様

○校区市民館主事 梅澤 容子 様

○高師台中学校長 岡崎 正彦 様

重点努力目標に対する具体的な取り組み

評価項目		具体的な実践
(1) 豊かな心	基本的な生活習慣の定着	○「生活三則」(時間・あいさつ・清掃)の実行。 ・時間を守る…時計を見て行動できるようにする。 ・「あいさつ運動」を推進する…さまざまな挨拶ができるようする。(児童会を中心に) ・無言で清掃に取り組む。
	自他のよさを認め合う集団づくり	○道徳授業の充実…教育課程の見直しと評価の工夫を行う。 ○よいところ見つけ(美行木・帰りの会など) ○生活アンケートを実施・面談する。アンケートを持ち帰り、保護者の心配を受け止める。 ○ハイパーQU検査を年2回実施(3～6年)分析し対応を考察する。
(2) 確かな学力	基礎・基本の定着	○年2回の力だめしテスト(夏休み明けの9月と冬休み明けの1月) ○学習のめあての提示と振り返りの充実。 ○マイ辞書で語彙を増やす。
	主体的・対話的で深い学びの実現	○話し合い活動の充実。 ○学年ごとに「聞くポイント」「話すポイント」の掲示。 ○タブレット学習の充実。
(3) たくましさ	年間を通した体力づくり	○各学年で体力を高める運動の到達目標を設定して取り組ませる。(なわとび・水泳・マラソン) ○1年間を通して集団遊びを奨励し、体力づくり、仲間づくりを積極的に実施する。(放課の時間を活用した遊具遊び、マラソン大会、みゆきっ子長縄大会)
	心身の健康の保持・増進	○自分の生活の様子を振り返る活動規則正しい生活習慣の定着を図る。ぐんぐんカードの活用(年4回実施) ○食育を充実 栄養教諭による、給食指導・食育指導。 ○グリーンルームを機能させ、不登校の子どもたちに居場所を作る。
(4) 開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程	○学校行事や学年の様子についてホームページやおたよりで知らせる。 ○地域の人やものなどを授業に取り入れる。
	地域との連携	○読み聞かせや安全見守りなど、子どもの学びや安全を地域と協力して進める。
(5) 信頼される教職員	安心安全な学習環境づくり	○防災教育(1年交通安全教室、3年自転車教室、6年防災講座) ・避難訓練(年4回)、避難経路確認訓練(毎月)、引き取り訓練 ○新型コロナウイルス感染症予防 ・毎日の健康観察カード(検温結果、風邪症状の有無)の記入
	組織体制の強化	○学年主任を中心として、報告・連絡・相談・確認を徹底する。 ○各学年の状況を共有し、共通理解のもと進める。
	教職員としての誇りと自覚	○目標を設定し、実現に向けて見通しをもって取り組む。 ○客観的な勤務実態の把握をもとにした働き方に対する意識改革を進める。

令和8年度 重点努力目標に対する具体的な取り組み

評価項目	具体的な実践
<p>(1) 豊かな心</p> <p>明るく活力のある学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>けじめとめりほりのある集団、気持ちのよい学校づくり</u> <ul style="list-style-type: none"> ・「時間・あい・そう」の心を浸透させ、みんな(教職員も)で取り組む 「時間を守る」「気持ちのよい挨拶」「考えて清掃に取り組む」 その意味や価値について考え、目的を共有して取り組む 委員会で月の目標を設定して働きかけを行い、教師が率先垂範することで浸透させる ○ <u>明るい「笑顔」と「歌声」があふれる学校づくり</u> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員から「笑顔」と「歌声」を発信する。 ・今月の歌に思いを込めて(選曲、歌い方) ・みんなで歌う場をつくる ○ <u>子ども主体の児童会活動・学級活動の充実</u> <ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会の機能活性化(学級からの吸い上げも) ・委員会活動の内容見直しと発信力の向上 ・委員会掲示板の効果的な活用 ・学級会のさらなるレベルアップ
<p>思いやりの心を持ち、学校生活をよりよくしようとする姿勢の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>自己肯定感、自己有用を高める活動の展開</u> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢集団との交流(ペアタイム)の活性化 ・学年掲示「美行木」(素敵な行い)から学校全体として「幸の美行木」の取り組み ・各学級での帰りの会で認め合う機会 「今日のキラキラさん」等 ・「ありがとうの会」の活用 ○ <u>心のインクルーシブ教育＝「みんなが幸せな幸小学校」の実現</u> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の違いを認め合う雰囲気づくり(まずは教師の姿で) ・児童理解を土台にした温かい言葉かけや愛情ある支援 ・特別支援教育やLGBTQ+についての考え方を共有し配慮や支援を行う ○ <u>「みんなが幸せな学校・学級」を旨とし、誰もが自分事に学校・学級づくりに参画</u> <ul style="list-style-type: none"> ・「心が動く」体験や「心に響く」指導で子どもの感性を磨く。
<p>(2) 確かな学力</p> <p>自ら考え、自ら学ぶ態度の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>生活科・総合的な学習の見直し</u> <ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心・疑問・感動から、子どもとともに単元づくり ・学校・地域をいかした教材づくり ・子どもが思わず動き出す授業づくり ○ <u>「心が動く」活動の展開</u> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動、本物を味わうことの重視 ・子どもたちが思わず、「やってみよう」と自分事としてとらえられるような単元や本時の導入の工夫 ○ <u>発達段階に合わせた家庭学習の定着</u> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の目的の明確化と家庭との共有 ・主体的な学びを促す学習方法の実践の共有 ・学年別家庭学習への取り組みせ方の系統化
<p>思考力・判断力・表現力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>「主体的・対話的で深い学び」の実践</u> <ul style="list-style-type: none"> ・個人追究力を高める 自分の課題を見つけ、自分で調べたり考えたりする手段を身につける ・話し合いの充実 対話を通して、自分の考えを再構築する 互いの考えを認め合い、協働して解決していく経験をさせる ・振り返りの充実を図り、次時の学びへいかす ・日常生活への活用や、地域社会への発信を意識した学習 ○ <u>「聴く力」「読み取る力」を高め、本質を理解できる子どもを育てる</u> <ul style="list-style-type: none"> ・校長講話をはじめ、いろいろな先生が話したことについて、感想や考えたことを書いたり話し合ったりする ・読書の奨励

<p>(3)</p> <p>たくましい心の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの発意・発想を生かした実践的な活動を展開することで一人一人の活動意欲を高め、結果にとらわれず、その経緯のがんばりを見届け、価値づける <ul style="list-style-type: none"> ・失敗しないように先回りするのではなく、転んだときどう立ち上がるかを学ばせる ・「ピンチはチャンス」と捉え、体験から学ばせる ・自分の意見を反映しやすい学級会や児童主体の委員会活動を通して自分たちで考えて行動できるようにする。 ○ <u>道徳教育・キャリア教育の充実</u> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人の考え方や生き方を学び、学んだことを掲示などによって共有することで、柔軟に対応できる引出しを増やす ・地域の人材バンクを開拓して積極的に取り入れる ・「人からどう思われるか」ではなく、「自分はどうかあるべきか」を考えさせる ・本質を問う「問い」について考える哲学対話を行い、対話を通してお互いの合意を作っていく方法を学ぶことで、相手を尊重する気持ちを育てたり価値を広げ深めたりできるようにする。
<p>たくましさ</p> <p>心身の健康の保持・増進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>運動や遊びを通して、健康な心と体の育成する</u> <ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びやボール遊びを教員も一緒に行い、楽しみながら体力の向上やコミュニケーション能力を育てる ・泥遊び、砂遊び、むしむしランドなど、遊びを通して新しい気づきや豊かな発想を育む ・体力テストや縄跳びチャレンジなど挑戦する場を作り、意欲的に自己記録の更新を目標として取り組むことで自分自身の成長を認められるようにする ○ <u>養護教諭を中心に、生活を振り返ってメディアの利用の仕方を考え、生活習慣を改善できる子を育てる</u> <ul style="list-style-type: none"> ・3年目になる「メディチャレ(メディアコントロールチャレンジ)」を継続(年3回実施) 学校保健委員会や保健だより、保健委員会でメディチャレの成果を伝えたり、意欲的に取り組めるような働きかけを行う ○ <u>栄養教諭を中心に食への関心を高め、食育の充実を図る</u> <ul style="list-style-type: none"> ・給食指導、食育指導、専門的な知識を生かした家庭科の授業への参加 ・児童に働きかける掲示、お便りによる児童や家庭への働きかけ
<p>(4)</p> <p>家庭とともに生活の基盤づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校新聞、ホームページで学校経営方針を発信 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「自立・自律・共生」という目標を共有 ○ 学校行事や学年の様子について積極的に発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ ・おたより(デンタツくんの活用) ○ <u>家庭とともに子どもを育てていく</u> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアチャレンジを年3回実施 ・スマホ教室の実施(保護者向け 児童向け) ・給食懇談会の実施(1年生保護者対象) ・学校保健委員会への保護者参加 ・保護者の学校ボランティアへの参加
<p>家庭・地域との連携</p> <p>地域と共に特色ある学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 50周年記念行事を地域と連携しながら実施し、子どもたちの心に残る行事としていく <ul style="list-style-type: none"> ・記念式典 ・芸術鑑賞会 ・記念植樹 ・航空写真撮影 ○ <u>地域の「ひと・もの・こと」をいかした学習を展開する</u> <ul style="list-style-type: none"> ・みゆき学習(総合的な学習)、社会科、生活科 → みゆきっ子発表会で学びを発信 消防署、スーパー、養鶏工場、曙給食センター、幸神社等の見学 働く人へのインタビュー(農業、工業、販売業等) 地域の歴史を学ぶ(校区防災、花祭り、高師原の開拓等) ○ <u>子どもの学習活動や安全な環境の充実を協力して進める</u> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ、めるへんおはなしの会 ・出前講座の活用 ・見守り隊活動 ・一斉監視、旗当番の活動(交通安全指導・挨拶への取り組み) ○ <u>市の進める放課後事業との連携を推進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・のびるんdeスクール ・児童クラブ ○ <u>コミュニティスクールの推進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や活動における協力者の情報を得て、活用につなげる体制づくり

<p>(5)</p> <p>安全で安心な教育環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員の危機管理体制の充実と意識向上 <ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーに対する共通理解、複数のチェック体制と研修 ・実際の場面を想定した緊急時の対応の見直し ・心肺蘇生(AED講習)、救急シミュレーション ・「豊橋・学校のいのちの日」に向けた取り組み 安全と命に関わる授業の実施 ・いのちの公演会の実施(12月) ・体験を重視した安全・防災教育 (1年交通安全教室、3・6年自転車教室、2・5年くすのき防災出前講座) ○ 過去の事例から学び、事故や発災時を想定した安全指導の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練(年4回) 引き取り訓練(4月) 警報時の下校訓練(5月) ・事前指導や防災意識を高める教育の充実(みゆき学習での取り組みや情報の発信) ・登下校中の安全指導 通学路点検(5月) 避難場所の確認 ・大地震を想定した「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」環境整備 ○ 積極的な生徒指導の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・生活サポート委員会(低学年部会、高学年部会)を月に1回開催 職員会後の児童理解の会で全体共有 資料として活用(情報の共有とすばやい対応) 記録した事実に基づいて、懇談会等で保護者と共通理解 ・「日々の記録」の入力を日常化し、子どもの変化を敏感に感じ取る タイムリーに情報を共有し、組織で対応 事後の様子を記録 ・生活アンケート(月1回・全校児童対象)の実施と面談週間の設定 児童の悩みや困り感(特に人間関係やいじめ、ヤングケアラー)の把握 学期に1回、アンケートを持ち帰り生活アンケートを家庭で記入 必要に応じて面談 早期指導・早期解決に生かす ・情報モラル教育の推進 児童、保護者向けに講演会を実施 SNSやネットの利用や危険性について継続した指導 ○ 登校しづりや不登校児童の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる学級、学年、学校(居場所づくりと絆づくり) ・早期発見早期対応による組織的な支援 情報共有と共通理解のもと「チーム幸」で対応 ・校内サポート室「グリーンルーム」の運営方針と手だての見直し(R8.5月現在5名) ・将来の自立と自律の土台となる支援(SST、こぐトレなど) ・不登校や学級不適応の児童への切れ目のない支援 ICTを活用した学習支援 ・保護者との連携 本人や保護者の困り感に寄り添う 必要に応じて面談し改善 ・SCやにじの子相談、ココエール、訪問看護など外部機関との連携
<p>学校の教育力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「仲間とともに問題を解決するために主体的に学ぶ子の育成」を掲げ、「良好な人間関係」を基盤に、授業で伸びていく子の育成を実践する 【授業づくり部会】 自分事としてとらえる教材との出合わせ方や、関わり合いを意識した授業を構想する 【思いやり部会】 友達の考えを受け止め、優しさや思いやりをもって肯定的な人間関係を築く 【生き方部会】 さまざまな生き方に触れたことを自らの今後の生活に生かし、自分の生き方について考える 【特活部会】 児童会活動や学級活動を通して、よりよい学校や学級づくりに自ら参加する意欲をもつ ○ ICTの活用の仕方の研修 ○ 授業力向上プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・ふだんの授業を見合うことで、授業力の向上だけでなく、教師力の向上を図る ・4回の授業研究会を学年団で検討、運営することで授業づくりを学ぶ機会を増やす ・授業づくりの教材研究を学ぶ場の設定
<p>機能する組織と働きやすい職場づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営機構に基づく組織の機能強化と報告・連絡・相談・確認の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・教頭、教務、校務、主査と各分掌リーダーとの連携 ・得意分野をいかした分掌への配置 ○ 運営委員会の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・学年主任の横のつながり強化 ・細部までいきわたる情報伝達とボトムアップ ○ 生活サポートの組織的運営 <ul style="list-style-type: none"> ・「生活サポート小委員会」「生活サポート全体会(児童理解の会)」での情報の共有 ・日々の報告・連絡・相談・確認を密にし、すばやい対応 ○ 働き方改革 <ul style="list-style-type: none"> ・業務支援員・校務支援員による業務支援で負担軽減をさらに進める ・客観的な勤務実態の把握をもとに、意識改革を進める ・衛生委員会を毎月開催 産業医による健康に関する助言を改善に生かす

令和 8 年度 学校予算執行計画

幸小学校

1 予算執行基本方針

○学校長の経営方針を受けて

- 笑顔あふれる元気な学校を目ざして、魅力あふれる教育活動が展開されるように「学びの場」を整える
- 安全で安心な教育環境づくりのため、児童の安全を優先した予算執行を心がける
- 働きやすい職場環境を整備する

○今年度購入備品について

- 理科教育設備の整備事業・補助金を活用して、理科の実験器具を整備する
- 古くなった備品、教材を計画的に更新する

○校内補修工事予定について

11月より、豊橋市内の学校施設を対象とした包括管理委託業務（施設の点検と維持補修などを専門家へ一体的に委託する業務）による補修工事の対応を行うため、今年度以降の工事費の学校配当はなくなる。11月以降は教職員による日常点検に加え、専門業者による巡回点検も実施し、安全な施設維持に努めていく。

2 その他

- 劣化している教室のカーテン、児童机椅子、体操用マットについては数年計画で更新・整備していく